

市事務事業の外部評価結果

～市外部評価委員会～

学識経験者と公募による市民で構成する市外部評価委員会（委員7人）は、本市が相馬市総合計画「マスタートップ2017」に基づき、令和7年度の重点施策実行計画として定めた35施策の中から、15の事務事業を選定して評価を行い、令和7年12月8日、市長に評価結果を報告しました。

評価に当たっては、全6回の委員会を開催し、担当課へのヒアリングや現地視察などを行い、各事務事業の取り組み状況の検証を行いました。

市では、この評価結果を今後の事務事業の改革・改善に反映していきます。



【総評】

●少子高齢化や気候変動の影響により、これまで保たれていたバランスが崩れ始めており、地域社会のさまざまな局面で社会問題として顕在化してきています。人口減少や地球温暖化が確実に進行する中、地域を支えるさまざまな団体の構成員の高齢化・なり手不足の問題、地域の自然環境を形成する里山や農地の荒廃、生活スタイルの変化によるごみ排出問題、下水道を始めとするインフラ維持管理コストの増大など、さまざまな問題の深刻化が懸念されます。今後はこれまで以上に「私たちの住む相馬のことを考えた持続可能なまちづくり」という視点を中心に捉え、未来を見据えた行政運営を行ってください。

●市民が安心して生活し、誰もが幸せを感じられる相馬市になるために、相馬に住む全ての人が孤立しない、孤立させないことが極めて重要です。地域全体で見守り合い、支え合い、声を掛け合うことで、住民が社会とのつながりを実感できるように、行政と市民がより深く関わる、誰一人として取り残さない、笑顔あふれる共生社会を目指してください。このような社会の実現には、市民にノーマライゼーションという理念を浸透させることが不可欠です。また、地域力の向上のため、行政が主催する会議に多くの住民が積極的に参加できるよう努め、幅広い層から寄せられる意見を誠実に施策へ反映させてください。

※ノーマライゼーションとは、障がいのある人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていく社会を目指すという理念です。

●今後も相馬市が魅力ある相馬市であり続けるために、食や自然、史跡など、十分に活用されていないポテンシャルを秘めた観光資源を最大限に活用し、多角的な経済・市街地活性化施策を強力に推進してください。相馬を訪れた方が満足し、リピーターとして情報を発信していくだけるように、多様な関係者が協力し合い、住民と共に柔軟な発想で幅広い意見を出し合いながら一体となつて取り組むことを期待します。さらに、まちの将来を支える人づくりのため、学校教育の充実を図るとともに、市内への若者の定住を促進するために、世代や性別を問わず活躍できる社会環境づくりを進め、まちの魅力向上とあらゆる面での情報発信の強化を図ってください。

【評価結果】

▽15の事務事業について「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行った結果は、次のとおりです。

▽評価点数は、7人の委員が事務事業ごとに事業の妥当性や効率性などを5点満点で評価したもののが平均です。

評価	今年度事業数	昨年度事業数
A= 必要かつ有効であり推進することが妥当	0	5
B= 改善を図りながら継続することが妥当	15	15
C= 一部修正・再検討が必要	0	0
D= 見直し・休止・廃止について検討が必要	0	0
合計	15	20

●事務事業ごとの評価

No.	事務事業名	点数	評価	コメント
1	戸籍への振り仮名記載の推進	3.9	B	戸籍への振り仮名記載は、行政サービスのデジタル化と効率化を促進するための基礎的な環境を整えるために必要な取り組みです。市民に丁寧に説明しながら、滞りなく推進してください。取り組み推進に際しては、氏名という個人のアイデンティティーに関わるセンシティブな情報を取り扱うことから、正確な対応が求められます。職員への講習などを通してさまざまなケースを想定した準備を行い、トラブルのないよう進めてください。
2	ノーマライゼーションの理念の更なる普及・啓発と障がい者雇用の推進	3.6	B	ノーマライゼーションの理念を市民に根付かせていくことで、社会的マイノリティーを特別視する事なく、全ての人が同等に生きていける社会を目指してください。市民一人一人が日常の具体的な行動を通じて実践することで、社会全体で支えることができるよう、企業や学校とも連携して、合理的配慮の理解を深める啓発活動の展開を期待します。また、障がいのある方が仕事を通じて社会参画し、充実した人生を送ることができるよう、障がい者雇用のさらなる推進をお願いします。
3	授業の質的改善と家庭学習の充実	3.7	B	子どもたちが将来豊かな人生を歩むことができるよう、読解力向上を目標に実施してきたこれまでの授業改善の取り組みが徐々に成果として現れています。今後も、基本となる読み書きへの注力と、教科書の徹底活用を継続してください。一方で、家庭学習の面では、手引き作成などの取り組みは行われているものの、子どもの自発的な学習を促すための取り組みも重要です。子どもの学習意欲を高めるため、授業を通じて各教科の楽しさや学ぶことの意義を伝え、子どもたちの知的好奇心や達成感を引き出せるよう努めてください。
4	男女共同参画意識の啓発活動	3.6	B	家庭や職場で旧来から残る固定的な「性別役割分担意識」が、若者の地元離れの一因となっており、男性も女性も共に能力を発揮し、共に責任を担う社会を目指した啓発活動がより一層求められています。啓発活動を積極的に推進することで取り組みが広がり、具体的な変化につながるように、若年層や男性も関わることができるテーマや取り組みの工夫を期待します。
5	移住定住総合窓口による支援の実施	3.4	B	移住やU・Iターンを通じて相馬に若い世代を定着させることは、産業や地域コミュニティー、公的サービスの維持など、あらゆる面において地域の存続に直結します。また、各地域においても同様の取り組みが活性化する中、各種メディアで目にする他市の取り組みと比較すると、まだまだアピール不足を感じます。特に、Uターン希望者向けの情報提供および支援の充実や、移住者の生の声の発信による、相馬での暮らしをイメージできる情報発信の強化など、さらなるPRをお願いします。
6	おでかけミニバスと生活路線バスの効果的な運行に向けた検討	3.9	B	交通手段を持たない高齢者にとって、おでかけミニバスは生活上極めて重要なインフラです。高齢化の進展により、今後ますます利用希望者の増加が見込まれること、また高齢者による自動車事故防止にもつながることから、免許返納のタイミングなど、あらゆる機会を捉えたPRと利用促進をお願いします。新たに導入した予約制による運行は、利用者の利便性と効率性の両面において効果的な方法であると評価します。運行開始後は、成果と課題を速やかに検証し、改善を加えながら最適な形へ構築していくことを望みます。
7	相馬の「食・自然」を活かした観光と物産の振興	3.6	B	観光・物産のさらなる振興を図るため、相馬の食や自然、史跡など、ポテンシャルのある観光資源を大いに活用し、より効果的な施策となるよう、関係者を巻き込んだ検討を進めてください。特に、相馬ならではのさまざまな海産物のPRや体験型イベントの充実を望みます。また、イベントの開催やインフルエンサーによるSNSでの発信など、施策ごとの成果を定量的に把握し、継続的な来訪促進につなげていくことを期待します。

No.	事務事業名	点数	評価	コメント
8	中心市街地活性化基本計画の策定に向けた取組み	3.5	B	人口減少の進行が確実に見込まれる中、中心市街地を活性化していくためには、従来にはない柔軟な発想と思い切った施策が必要となります。幅広い人たちから意見を収集し、基本計画の策定にとどまらず、魅力的なまちづくりに向けた継続的な検討をお願いします。また、活性化のための施策の実施に当たっては、部署をまたいで財源の捻出や一貫性のある取り組みなど、全庁を挙げた戦略的な取り組みにより、実現に移していくことを期待します。
9	市営住宅使用料徴収率の向上と滞納繰越額の縮減	3.7	B	市営住宅の提供は、セーフティーネットとしての側面もあることから、厳格な使用料徴収にはさまざまな困難を伴うものと思われますが、受益者負担や公平性という観点や、健全な財政運営という観点を踏まえ、未納・滞納への取り組みを積極的に推進してください。徴収率向上に向けた現在の取り組みは、法的手段の活用も含め着実に進んでいるものと評価します。今後は、入居者への配慮は保ちつつ、持続可能な運営を目指してください。
10	相馬市下水道事業経営戦略に基づいた事業経営	3.9	B	人口減少や物価高騰により、下水道事業を取り巻く環境が厳しさを増しつつある中、中長期的視点に立った安定的かつ持続的な経営が求められています。また、令和7年1月に埼玉県八潮市で起こった、老朽化した下水道管の破損による道路陥没事故を教訓に、設備の適正な維持管理とその費用負担についても考えなくてはならない状況となっています。これらを踏まえ、今般の使用料改定の方針は必要なものであると評価します。今後は、市民への丁寧な説明を通じて、理解と納得が得られるよう、情報発信の仕方を工夫してください。
11	若手狩猟者の育成及び狩猟従事者への支援	3.7	B	サルやイノシシによる農作物への被害が多くの地区で発生しており、対策が急務となっています。また、近年は野生生物が民家や学校の近くにも出没しており、昨今全国的に問題となっているクマによる人身被害の例もあり、若手狩猟者の育成がますます重要度を増している状況です。対策に当たっては、狩猟者の育成や処遇改善、里山の適切な保全といった中長期的な対策と併せて、現在困っている地域住民の声に直接的に応えられるような実効性のある取り組みにも期待します。
12	浜の駅松川浦の利活用	3.6	B	浜の駅松川浦は、オープン以降、集客・売上は堅調に推移し、相馬の魅力発信拠点としての取り組みも継続的に実施されており、順調な船出になったものと評価します。一方で、平日の集客についてはまだ伸びしろがあると思われます。平日は市民向けのイベントを企画するなど、いつ行っても面白いと思われる浜の駅松川浦を目指してください。今後は、売上や集客数の増加だけではなく、店舗を訪れたお客様の顧客体験価値の向上にも目を向けて、より一層愛される施設となることを期待します。
13	ごみ減量化再資源化の更なる推進	3.5	B	今後予定されているプラスチックおよび衣類、また昨今火災事故が頻発して社会問題となっているリチウムイオン電池などの拠点回収の取り組みは、循環型社会構築のためのリサイクル推進施策として適正であり、取り組みの推進をお願いします。回収率向上のためには、新たなルールの周知がポイントとなりますので、市民にとって分かりやすい説明を心掛けてください。なお現在においても、ごみ出しのルール順守が徹底されていないケースも散見されますので、厳格な措置も念頭に入れて、必要な対策の検討をお願いします。
14	行政のデジタル化及び行政手続きのオンライン化の推進	3.8	B	人口減少が進む中、職員数の減少も視野に入れた行政事務の効率化策を模索していく必要があります。行政のデジタル化および手続きのオンライン化の推進により、「書かなくてよい窓口」や「行かなくてよい市役所」を実現し、業務効率と市民サービスの向上を目指してください。オンライン化対象の業務数は相当な数に上ることから、不具合の発生や手続きの遅延につながることのないよう、計画的かつ確実な推進をお願いします。
15	消防団活動への支援	3.8	B	消防団は、市民の安全を支える極めて重要な任務を果たしていますが、実際の活動内容については、市民への周知がまだ不足しています。近年、消防団員の高齢化や団員数の減少が進行しており、消防団の維持のためには、若年層へのアピールの強化や、各団体や組合からの人員派遣、分団内の班の再編など、限られた人員や資源の中で検討が必要となっています。消防団活動への支援は地域の防災力維持のためには欠かせない取り組みであるから、今後も積極的に推進してください。併せて、活動内容の見直しを含めた、負担軽減のための検討も期待します。

外部評価委員からひとこと

◆梶田浩二委員長

今回の事業評価は、全てB評価というかなり辛口な結果となりましたが、担当課の方々はそれぞれの事業に対して真摯（しんし）に取り組み努力されていると認識しております。これは、ヒアリングや現地視察を通して委員全員が共通認識として持っているものと思います。外部評価委員会は、市の行う事業を民間目線でどのように考え評価するかという場なので、市の事業を知り勉強する絶好の機会です。次に選考された方は進んで参加されることをおすすめします。また、今回も担当課の方々にはお忙しい中、詳細な資料を作成していただき参考にさせていただきました。改めて感謝申し上げます。

◆我妻大委員

今年度で2年目の参加となりましたが、初年度に引き続き、市では市民に寄り添った幅広い分野でさまざまな施策に取り組んでいることを改めて実感いたしました。今後も市民一人一人が安心安全に暮らせるまちづくりや、子どもたちが夢や希望を持って成長できる相馬市を目指して、市民と行政が一体となり課題解決に向けて取り組まれることを期待しています。

◆伊藤順一郎委員

今年度は、2年目の外部評価委員会となり、職員の皆さんとの1年間の取り組みを感じる事もできました。一方で市政の課題解決の難しさも感じとれる1年でもありました。多くの課題の中には、市職員の皆さんと市民との意見交換によって解決へ導くものもあると感じました。激動の時代だからこそ、官民一体になり厳しくなっていくであろう市政と向き合える相馬市になってほしいと思いました。外部評価委員会も、もっと幅広い年代の方が集う事でより良くなると感じました。みんながワクワクする相馬市になって欲しいと思います。

◆伊東千恵子委員

事業を担当する部署の皆さんには、審議に協力いただき御礼を申し上げます。評価委員の皆さんにも1年間お世話になりました。今年度は全ての事業がB評価となりました。課題はありますが良い結果であると思います。今後もより良い市民サービスの提供に努力してください。

◆鈴木妙子委員

今年度も外部評価委員会に参加させていただきました。各事業内容を聞かせていただき、きちんと課題を持って考えられていると思いました。これからも市の発展のためにしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

◆宮田真委員

昨年度に続いて、このたびも外部評価委員として貴重な機会をいただき、感謝を申し上げます。限られた資源の中で子育て支援や地域福祉、防災などに着実に取り組む職員の皆さまの姿勢に大きな頼もしさを感じました。今後も市民に寄り添った事業推進を期待しています。

◆米山真弘委員

このたび、外部評価委員を務めさせていただき、一市民としては気付くことができない課題や、市の取り組みなどを学ぶことができました。今年度評価した事業は、現在の市の置かれている状況や今後の市民生活の改善に十分に資する内容だと思います。行政と市民とが手を取り合い、より良い相馬市になりますよう期待申し上げます。

●問い合わせ先 企画政策課（☎ 37-2132）